

ふぞく新聞

4月16日(金)

Vol. 1
(Vol.24)

こんな時こそ受け止めて！！

十六年度がスタートしました。ふぞく幼稚園に五十三名の元気な声が響いています。

遊戯室でボールを投げて遊んでいる子、年中さんの時に流行った『バナナ星人』(『鬼』)の進化版のような遊びです。お部屋のアンパンマンのぬいぐるみで遊んでいる子、絵本を囲んでみている子、何をしたら良いのかウロウロと困惑気味の子と様々です。

そんな中『ん？』と思うことがあります。それは一部の在園児の姿です。新入園児に圧倒されているのか、以前の元気な姿が見えません。

どちらかと言うと在園児の子ども達の方が困惑しているのです。例えるならば、弟や妹が生まれ、今までとは違う環境に困惑している兄や姉といったところでしょうか……。

さて上段の続きですが、以前僕は年少さんから年中さんを担当した時、困惑している元在園児に「待っていて！」「後で！」を連発してしまったのです。その時の悪循環とあったら……。

その時の反省もあり、今では「待っていて」「後で」ではなく「よしやろう！」「ＤＯちゃん！新しいお友達も一緒にする？」と言うように心掛けています。(それでも待っていて」と言ってしまうことがあるのが反省点ですが)

さて「よしやろう！」の後ですが、これがおもしろいのです。子ども達が自ら「先生、新しいお友達には難しいから簡単にしないで」「ちゃ」とか「ごっちにおいで、教えてあげるから」と言っているのです。

これには一言、参りました。みんなに任せます！」と言った感じででしょうか。

独り言

今年度も懲りずに『ふぞく新聞』を書かせて頂きます。今まではこの欄で未就園児教室の日程や受付日をお知らせしていたのですが、今年度から僕の独り言コーナーとして書かせて頂きます。あくまでも生意気な男が勝手な事を書いているのでお許し下さい。

今年で幼稚園七年度に突入しました。(保育所時代は二年半を加えると)約十年になります。最近思うことは「まだまだ」「これからやあ」です。何故そう思うかという子ども達が僕にそう教えてくれるからです。(卒園児も含めて)

やる気は満々で、スピードはスローで行きたいと思えます。宜しくお願い致します。

ふぞく新聞

4月30日(金)

Vol. 2
(Vol.25)

好奇心がパワーの源です！！

この時期の子ども達の早業には本当に驚かされます。

お部屋でカメの姿を見ているなあーと思ってい
たらいつの間にかトランポリンの上にてギャハ
ハ！」と大笑いしています。

砂場で山を作っているなあーと思ってい
たらいつの間にかお部屋でままごと遊びをしてい
てはい、ご飯をどうぞ」とお母さんになっています。

ブランコかして！」とブランコの前で順番待ち
をしているなあーと思ってい
たらいつの間にかせ
んせいー、みてー」とジャングルジムの一番上に登
って手を振っています。

これらは決して根気が無いとか、集中力が無い
ということではなく、この好奇心こそが子ども達
のエンドレスなパワーの源なのです。

この時期、新入園児は特に上記のような
行動を見せます。色々な遊びを次から次へ
と行っていくます。その延長にはお友達との
不思議な繋がり(共感)があるのです。

ブランコに乗っているときに在園児がまさ
る先生、牛乳パワーしてよ」と言って僕に声
を掛けてきます。(この牛乳パワーしてよ』
とは子ども達から生れてきた言葉で、ブラ
ンコを押す時にこの言葉を言いながら押す
のがここ数年流行っているのです。何故おも
しろいのかはよく分かりません)それを聞いて
いた隣の新入園児は、初めは？」といった
感じでしたがおもしろいね。牛乳パワー」と
言っている間に二人で笑い合っているの
です。そしてブランコを降りた後も一緒に遊
んでいました。

子ども達にとって、友達と遊ぶというより
も遊んだ子と友達になるのです。

独り言

この間、隣の短
期大学から一年生
の学生が見学実習
に来ていました。
その時の出来事をお話したいと思
います。

ある男の学生が
いました。その学
生に年長を中心と
する数人の男の子
達が剣をもって戦
いを挑んでいるの
です。

その時の子ども
達の嬉しそうなこ
と、学生も一生懸
命でした。お尻を
つつかれたり、困
まれたりしながら
も遊戯室の中を所
狭しと走り回って
いました。

先生になって経
験を積むと色々と
分かってくる部分
もあるでしょう
が、何か大事なこ
とも見失いがちで
す。

学生を見ると
「初心忘れること
なかれ」といつも
思うのでした。

ふぞく新聞

5月14日(金)

Vol. 3
(Vol.26)

大人は「後で！！」子どもは「いま！！」

昨年度ふぞく新聞の三号にて「大人は今！！」子どもは「ふと！！」という内容を書かせて頂きました。え、その時と先生違うじゃないですか？」と思われる方、違っているわけではありません。今回はまた違う角度から子ども達の言葉（姿）を追ってみたいと思います。

バスを運転している時に子ども達が「先生、僕ね、この間・・・」と話しかけています。子ども達はまず僕、私です。それは我がままではなく、子どもらしい姿です。その時に添乗員の先生は子ども達の話の順番に聞いています。それでも盛り上がってくると声が重なってしまいどうしようもない時があります。その時（＝今）聞いてもらえなかった子ども達の様子は。さてこの後、その子どもはどうなったのでしょうか・・・。

上段の続きです。その子は「先生に今、話を聞いて欲しいのです」何故ならばその話はその空間（雰囲気）の中で生まれた話だからです。バスを降りてからでは違ってくるのです。今といたら今なのです。

でも世の中ってそんなもので、いつも自分中心というわけにはいかないのです。だから待つしかないのです。そこで色々と感じたり、考えたりするのです。（順番や我慢という事）その時先生は言いますね「〇〇君後でね！」△△ちゃんその次ね！」等々。

さあもうすぐバスが幼稚園に到着してしまします。その子はもう「時間が無い」といった感じで表情が曇ります。その時です。〇〇君の番だよ！」の一声に光が差し込んだ表情へ変わりました。後でね」と言う約束をきちんと守った先生によってその子は今という空間で話が出来たのでした。

独り言

子ども達の「今」は「まさに今」で、今こじやない」とダメな時が多々あるように思っています。

大人は「後でね」と軽々しく言いますね。（僕がそうです）でもその際にこの空間（雰囲気）を少しでも意識していくべきだと思います。

違った空間（雰囲気）になっから「さっきはなあに？どうした？」と子ども達に聞いても「・・・」といった態度をとるときがあります。それはその子が無言で（「もう遅いよ！」と）アピールしているのかもしれないかもしれません。先日お手紙を頂きました。貴重なご意見でした。今まで名まえを書いていませんでした。失礼しました。

柿原 勝

ふぞく新聞

5月28日(金)

Vol. 4
(Vol.27)

「嫌だ」も大事な主張の一つ

嫌だ」と言われると何故か大人は「え、なん
で?」という反応をしがちです。ほーいという
素直な返事には笑顔をかえすのに、嫌だ」と言
われると「言うことを聞きなさい!」と言わん
ばかりの表情になります。(僕がその一人です)
確かにこの嫌だ」という言葉にはパワーがあり
ます。大人が表情を変えるから余計に子ども達
はその言葉を言う傾向にありますが、「こゝで一
番言いたいことはみんな素直になろう!」とか
『子どもが嫌だと否定しても大人は怒ってはいけ
ない!』とかではなく、嫌だ」と言えた、その子
どもの気持ち(自己主張出来たこと)を大切に
して欲しいということです。
自分の気持ちを相手にぶつけることって簡単そ
うで難しいのです。今回はそんな話を。

幼稚園生活に少しずつ慣れてきた子ども達にとっておかたづけの言葉ほどショックな言葉はありません。まして、遊びが盛り上がり始めた時、次の遊びを見つけた瞬間に言われたら…。
入園当初は他のお友達におかたづけだよと妙に頑張って片付けていた新入園児の子にある日「おーい、お片付けだぞ」と言う嫌だ!」と言って遊び続けようとしていきます。(良いことだ」と内心ほっ」としながらこの時の嫌だ!」はやっと言えたのです。本当はお片付けなどせず遊び続けたかったのは本人だったのです。
こんな時は少し遊んでいこう」と主張を通しても良いと思います。勿論何でも有りじゃありませんからいつでも、誰でもそうするわけではありません。そのバランスを判断するのが僕らの仕事なのです。

独り言

上段の話で難しいのはバランスを判断する事だと思っています。

自己主張さえすれば『何でもあり』なんだと思われると集団のルールは崩壊してしまうからです。

個人でバランスを判断する場合も、勿論ありますが、ふぞく幼稚園では職員の保育観でバランスをとっています。

色々な人間がいるのが社会(集団)です。そして幼稚園は子ども達にとって初めての社会(集団)です。

人には色々な価値観があるように先生方にも色々な保育観があります。僕はそれで良いと思っています。『子ども達が大好きだ』という大事なものが根底にあれば。

柿原 勝

ふぞく新聞

6月10日(木)

Vol. 5
(Vol.28)

エンジンがかかってから！！

子ども達だけではなく、大人も同じだと思うのですが、「何か気分がのってきたぞ」エンジンがかかる」と思う(感じる)時ありませんか？
雨の後かたつむり探しをしているお友達がいて、そっちの方が「おもしろそうだなあ」と思っている中にも中にはそれまでの約束を優先して本当はしたい遊びを後回しにする子どもも中にはいます。(どちらかと言うと約束を放つたらかして好きなことをする子どもが多いですが・・・)

でも途中からどうしてもそっちの遊びがしたくてそっちに行っただのですが、一匹捕まえたところで「おかたづけ！」の魔の声が・・・。
エンジンがかかってきたところでの急ブレーキ、このような事多々ありませんか？

上記の話の場合は、お弁当の後に遊ぶ時間がまだあったこともあり、**もっと遊びたい**の気持ちになんとか保障されて納得していました。

色々な子ども達がいて、すぐにエンジンがかかり、最初からパワー全開で遊ぶ子。(「このような子ども達は人気のある遊具をすぐに見つけて遊んでいる事が多いですね。反面飽き易いですが・・・始めは全体をじっくり見て、色々な遊具に少しずつ乗り、最後の方でお気に入りを見つけ乗る子。(「一つの遊びを深く楽しめます。)

どっちが良いとか悪いとかの話では勿論なく、父母の方に知っていて欲しいのは「エンジンがかかったのかを知ること」です。それを分かって頂けると子ども達の遊びを見る気持ちも変わるように思います。時間だけが判断基準ではないのです。

独り言

この間ふぞく幼稚園にもウサギが来ました。(釧路動物園からお借りしているのです)

ウサギ小屋の近くで「先生、抱っこしたい」と言っている子に「いいよ。抱っこしても」とブランコを押しながら答えると「**ちがう!**」というのです。

今回は今までの経験から気持ちがわかったので「待って、○○ちゃんのブランコを押したら、そっちに行くから」と答えました。そこで納得して待っていました。つまり、抱っこしたくても一人では出来ないから僕に手伝ってということだったので。昔、そのような場面で「何が違うの?」と聞き返したのをその時思い出しました。
酷い柿原勝より

ふぞく新聞

6月25日(金)

Vol. 6
(Vol.29)

「お外で遊んだら・・・」

今年は気温が高いですね。こんな時は水遊びが大人気です。靴を置いたかと思っただけもう靴下を脱いで外で「キャー」と水遊びを満喫している子がたくさん見られます。

でもいつもと同じように遊戯室で遊んでいる子も数人います。その子達に幼稚園に実習に来ている学生が「外で遊ばないの？お外気持ちいいよ！」と声を掛けていました。その子の返事は「いけない！」でした。

このような時に皆さんは何と声を掛けますか？（外に出て遊ぶことも経験して欲しいと言う気持ちを伝える為に）

僕も以前は「外に出た方が体にいいよ」等と言っていました。最近はずっと一緒に遊ぶことにしてみたのです。そこに変化が・・・。

外に出て遊ぶことの楽しさも今後長く知って欲しいと思ったならば、指示的な言いがたとなえ優しくても手段は避けた方がいいようにさえ思っています。

それではどうするかというと、その子ども達と一緒に遊び、中で遊んでいる楽しさを大人が実感することです。まずは仲間になることです。その仲間に認められたうえで「おい、ここじゃ狭いぞ！もっと広い外で続きしようぜえ！」と言うと「いいこといふなあ！」とか「ぞうだなあ」とか「おれ、そといやなんだけどまあいいかあ」とつぶやきながら自分から帽子を部屋に取りに行き外に出てきます。

実際に外で遊び、遊戯室と同じように遊びが成り立つことを実感すると外でも遊ぶようになってくるように思います。実感することがとても大事だと思っています。

独り言

この間、気温が高く暖かい日だったので外で遊ぶうと思っていたら、「ねえ先生、お遊戯室に早く行こう」と誘われました。その園児は入園当初に僕と一緒に遊んだピクニック遊びが大好きで、その遊びをしたいと言っていた。するとその遊びに多くのお友達がいれて」とまざってきました。

そこで、そのま中でしばらく遊ぶことを覚悟してピクニック遊びをし、途中から戦いごっこに遊びを広げて遊んでいると年長さんの一人が「そこのほうがいいよ！」と提案してくれました。その後の姿は想像に任せます。

一方的な指示ではなく寄り添う気持ちが必要です。柿原 勝

ふぞく新聞

7月9日(金)

Vol. 7
(Vol.30)

「僕が一位だ!」「ちがう!」

ふぞく幼稚園の運動会が間近にせまってきました。そんな時期になると「僕が一位だ」「違う!」という声をよく耳にします。

その言い合いの後は「なんだ」と衝突が始まり、時には泣いていることもあります。

僕はこの姿を見たときに思い出だすのが「そうそう、俺も幼稚園時代一位になりたかった」という過去の記憶です。(但し僕は足がとても遅かったのでお弁当を食べ終える事で一位をねらっていました。)

僕が幼稚園時代に一位を競っていて先生に怒られたことをこの仕事についてはつきり思い出しました。その時に「はやいだけじゃだめなの」と言われました。でも僕はその後全く反省せず、ずっと一位を目指すのです。

何故、子ども達って一番をそんなにも目指したり、一番にこだわったりするのでしょうか?

他人のことは推測になるので、まずは僕が幼少時代思っていたことを書くと、「二位」よく誉められる気がしたから」「二位」とても尊敬される気がしたから」「二位」とてもはやくて凄い感じがしたから(この時期は何より『はやさ』が一番の基準でした。年齢を重ねるうちに『はやさ』以外にも『綺麗』『丁寧』等の方にも価値があることを本当に実感したのです。)

子ども達がよくその衝突をしている時にしばらく様子を見た後、僕はそうだ、〇〇君が一位だ」とまず結論を言うようにしています。〇〇君はとてもはやかったね。その事は〇〇と言って大きな丸を手で表した後、否定部分を言うようにしています。

独り言

小学校の図画工作(絵画)の時間でした。僕はこの場面でもスピードを最重要視しているのですぐに完成させて「先生、出来た!」と言って見せに行くと柿原君、ここは何か無かった?」とか「ここは何色だった?」等々言われました。はやく完成させたいのに邪魔をする先生に対して本当に邪魔ばかりして」と思ったものです。

そんな最後に一人一人の作品を見る時間があるので。僕の作品は変なの」とか言われ顔を赤くしたものです。そんな中「わあ綺麗」と思う友達達の作品がありました。その友達はとても時間をかけて仕上げていたのです。この出会いに今は感謝です。

柿原 勝

ふぞく新聞

8月27日(金)

Vol. 8
(Vol.31)

「あれ？もう？」いえいえ、 それだけ仲がよいのです！！

二学期が始まりました。久しぶりに会ったお友達と嬉しそうに話したり、遊んだり、じゃれ合ったりしている姿をあちこちで見かけます。

おい、戦いごっこして遊ぼうよ」と誘い、嬉しそうに遊戯室に走っていったのも束の間、先生、○君が泣いてる！」と他のお友達が僕を呼びに来ました。

遊戯室に行くと見ると、さっきまで嬉しそうにしていた園児の一人でした。何となく検討がつきましたが、決め付けてはいけません。『どうした？』と聞くと△△君が・・・』と言うのです。お互いに言い分はありました。その姿を見たとき僕はそれだけ仲が良い証拠、これから続くであろう、続いて、そこからお互い何かを感じて欲しい！』と思うのでした。

皆さんは『アンカ』についてどうお考えでしょうか？僕は弱虫なので基本的に平和に、穏便に』と思うのですが、子ども達のケンカ』の場合は、まあまあ、抑えて抑えて』といつも円くおさめない方が絶対に良いように思います。

父母の方に見てみたら、いや特にお母さん方に見てみたら 相手のお友達に怪我なんてさせたら大変！』と思われるでしょうが、ちよつと考えて頂きたいのです。

子ども達にとっては、経験・体験がその後の土台となります。大人が勝手に先走って危ないよ！』ダメだよ！』はい、仲直り』と知識を振りかざしたって、決して実感出来ません。つまり又、してしまうのです。

『アンカ』それだけ気持ちをストレートにぶつけ合う事が出来ている』と思うのです。その状況は良く見ないといけません・・・。

独り言

七月の後半に北海道私立幼稚園の研究大会が十勝で開催されました。

色々な幼稚園が公開保育といっていつもの様子を全道の幼稚園の先生方に見せてくれるのですが、僕が見学させてもらったのですが、(見学というより参加でした)山の中をどんどん歩くのです。途中大人でも滑って歩きづらいくところをどんどん歩いていく三歳児には驚きました。楽しみながら、少しずつ距離を伸ばしていったそうです。基本的には毎日歩くそうです。『少しずつ、毎日』これって大事ですね！

柿原 勝

それぞれのペースで！！

ふぞく新聞

9月10日(金)

Vol. 9
(Vol.32)

ふぞく幼稚園では父母会主催の「ふぞく祭」というバザーのようなお祭があります。お母さん方が手作り品・レストランコーナー・ゲームコーナー等々を準備し、当日には在園児は勿論、卒園児や近所の子ども達も買い物に来ます。

その際の子ども達の様子は様々でよく見てみると本当におもしろいです。いつもと違う大人数に圧倒される子、たくさんの品物に心躍る子、事前に関心していた物をチェックして、すぐに手に入れる子、くじ引きの上位賞品をなんとかゲットしようとする子、食べてばかりいる子、買った剣やおもちゃで早速遊び始める子、妙に弟や妹の面倒を見ている子等々……。その違いが良いのです。

上記のような様々な子ども達ですが、更に長いスパーンで見ると成長や変化を感じます。

幼稚園を卒園してから色々と経験を積んできたのでしょね。色々な場面で！

幼稚園時代は圧倒されていた子が友達と一緒にに色々を買ったり、食べたりと楽しんでいました。

幼稚園時代はなかなか自分の気持ちを前面に出せなかった子が **おい、次はあっちに行ってゲームしようぜ！**と言って走り回っていました。

そう考えると、何もそんなに急ぐ必要は無いようですね。それぞれのペースでみんな大きくなっていくのです。

他人との比較をしないと言うのは無理な話でしょうが、その子、その子の変化・成長はしっかり見ていきたいなあと思うのです。

独り言

秋の遠足に出掛けた時、園児と一緒に水遊びをしていると、一人の園児が来て、水遊びの最中に芝生の方に僕を連れて行き「**ねぇ走ろう！**」と言うのです。

裸足だったので「大丈夫かなあ？」という心配も勿論ありましたが、この感触はやはり裸足じゃないと味わえません。走ったり、転がったりして楽しんでいるとそこに他の園児もやって来ました。(笑い声は人をひきつけます) 十分楽しんだ頃「痛！」と石を踏んだ僕の足の裏が少し切れました。子ども達はみんな無事。偶然？それはともかく、怪我も怖いですが、このような場所で裸足になれるようになる方が怖いですね。

柿原 勝

ふぞく新聞

9月28日(火)

Vol. 10
(Vol.33)

わからないかも・・・ でも感じています！！

出会いがあれば別れもあります。それは入園式・卒園式以外にも突然やってきます。

ある三歳児の園児がふぞく幼稚園を去ることになりました。

その際、お母さん方からよく耳にした言葉は

「(転園することを)よくわかっていないようです。」

「三歳児にはまだ○○君とお別れすることがよくわかっていないみたい！」という言葉でした。

僕もそう思っていました。勿論個人差はあるでしょうが、僕自身小学校一年生の時に転校する意味がよくわからず、転校してから「？」とパニックになった記憶があります。

でも本当にわからないのでしょうか？そうでも無いようです。確かにわかるというものではなく、『感じる』というのですが・・・。

その園児が転園する前日の「帰りの会」で僕が忘れ物を職員室に取りにいった時のことです。子ども達が突然話し始めたそうです。なぜ「・・・たそうです」なのかと言うと後で実習生から聞いたからです。

さびしいね！」と口々に言い始めたそうです。するとその転園する本人が皆に「でも我慢だよ！」と言ったそうです。それを聞いて「うん、我慢する」と又口々に言ったそうです。

僕が教室に戻ってきた時にはいつもと同じ様子で、後から実習生にその話を聞いた時は「えー……？」と驚きました。

僕はいつも通り目一杯遊んで、そして「ようなら」をしたかったので、あえて前日の段階では何も触れなかったのに……。

頭ではわかっていないかも知れませんが、それぞれ感じているのは間違いないです。

独り言

子ども達って大人のいない所(空間)で色々な会話や行動をしたり、大人が思っても見ない会話や行動をしているようです。

大人がいないことを確認して(感じて)から話したり、行動したりするので「え、そんなこと。まだ子どもだよ、ないって！」と言われる方多いと思います。でも、子ども達の世界に寄り添っていくと「え？そうだったの？」という声が聞けるのです。

今になると大変恥ずかしいのですが、僕も以前は、「幼稚園の子ども達の出来事は全部知っています！」なんて豪語していましたね。反省！「無知の知」の言葉の深さを感じます。 柿原 勝

ふぞく新聞

10月8日(金)

Vol. 11
(Vol.34)

初めては、不安・・・ 2回目は、自信！！

お店屋さんごっこに向けて色々と準備をしてきた子ども達。当日は、デパート・レストラン・美容室・ゲームセンターに分かれて売り手を楽しんだり、好きな所で買い物をしました。その時の子ども達の様子を見ていて感じたことを今回は書きたいと思います。

年少さんにとっては初めての行事です。しかもいつもと部屋も違うし、雰囲気も全く違います。更にこの日は園開放日ということもあり、大勢の人に「・・・」といった感じのお友達もいました。この姿はある意味当然の姿だと僕は思っています。大人だって初めての時は緊張しますよね。でも過去の経験によってなんとか対応出来たりするのです。子ども達にはその経験がまだないのですから！

さて、上記のような姿をみせた園児の近くに行き具体的に「何がほしいか」「何がいないか」を聞いていくうちに不安が消えてきたようでした。

「10えんです！」と売り手の時も声が少しずつ出てきました。(そうそう、ゆっくりでいいんだあ」と思っていました)その隣で「うっしゅいませー」ぎゅい(お金の色)「3まいですよー」むうすぐなくなり「ますよー」と大きな声を出して自信満々で行っている園児の姿が見えました。『?』昨年の今頃、自分の言いたいことも先生にはつきり言えずにいたのに・・・」それは頼もしいなんて言葉では足りません。『裕好良い』『粋だね』という言葉の方が適切かと思いました。昨年度のお店屋さんごっここの経験が「ここまで自信を持たせるのですね。」

独り言

毎年お店屋さんごっこ前に「どんなお店屋さんがあったらいいだろうか？」と先生方と相談します。そんな中から生れた美容室は女の子に人気があったようです。

その美容室を提案した先生が作ってくれた、たい焼き・たこ焼きの屋台はとても大人気でした。

昨年度もたい焼きとたこ焼きを売ったのですが、屋台で売った方が、より雰囲気もできて、売り手も買い手も楽しめるのではないかと話がまとまったのです。

子ども達の遊び心をくすぐる演出(工夫)は大切です。でもそこには手間がかかります。その手間をかけて用意した先生に僕は脱帽です。

柿原 勝

ふぞく新聞

10月25日(月)

Vol. 12
(Vol.35)

その眼の奥に何を！！

ふぞく幼稚園では秋になると『鮭の解体』という行事があります。

この行事は、元園長である山代先生が、「みんなは食べ物を食べて助け合って生きている」という事やオスとメスの違いは何か？（「白子と筋子や顔がとがっている方とまるい方」、体の大きさは？重さは？ヒレの数は？と色々なことを教えてくれます。

子ども達は様々です。「？」といった子もいれば、筋子には妙に反応する子もいました。そんな中「じっ」と集中して鮭のお腹の中を観ている子の眼を見た時、吸い込まれるような感じがしました。「一体その眼で何を見ているのだろう？この子は何を感じているのだろう？何を思っているのだろうか？」と・・・。

上段のある園児の眼というのはその園児だけが特別なわけでは勿論ありません。

子ども達はそれぞれの場面でそのような眼をします。

興味・関心があるとき等に見せる子ども達の迷いのない(疑いのない)、真っ直ぐな眼に保育者は「コロオドります。と同時に大人として、一人の人間としてそのような眼をする場面があるのだろうか？」と思いました。

「ないなあ・・・」と思いましたが、少し近付けた気がした日はありました。それは一緒に散歩に行った時のことです。以前水溜りにいた蜂のことを思い出しある園児が「ぎゅもハチさんいるかなあ？」と探した時でした。みんなと一緒にしゃがんであちこち探しました。結局いみせんでしたが子ども達と同じことをした時そう思いました。

独り言

今年も年長さんがわかくさ保育園とサッカー交流をしました。過去の対戦成績(平成十年度から)は僕が知る限り(十一年度は中止)では二勝三敗です。

今年はわかくさ保育園が去年の雪辱を果たし勝ちました。最後の挨拶の時に悔しくて泣いている子が数人いました。「その悔し涙はとても大事」と思って最後、子ども達に話しました。(もうこの子達是对戦出来ません。でも年中少さんにバトンタッチすることは出来る)一緒に練習して自然と教えてあげること)勝ち負けがあるからこそ一生懸命になれる。負けても続きがあることを示していきたいと思うのでした。

柿原 勝

ふぞく新聞

11月8日(月)

Vol. 13
(Vol.36)

遊びから！！

この時期になると子ども達は色々な遊びをしています。その中の一つに「ジャンプでぴよん！」という遊びがあります。この遊びの名前は子ども達がつけたもので自然とその名が残って定着しました。（僕が長縄を円盤状に回しその縄に引っかかるように子ども達がジャンプしていく遊びです。一度も引っかからず、最後まで残ったお友達がチャンピオンです）

この遊びをしていてある広がりには僕は気付きました。「子ども達は遊びから色々なことを知る」遊びこそが大切」と学生時代、先生に教わったことを再確認させられました。

遊びの中には色々な物が含まれていて、とても自然に伝わっていくのです。さて……。

この遊びは長縄を使います。ふぞく幼稚園には四色（赤・青・黄・緑）の長縄があり、どの色を使うかでまず子ども達の声が変わります。赤なら**先生、火ね！**これにぶつか**ったら燃えること**。黄なら**鼻水・おしっこ**と言ってぶつくと**わあー**と大笑いしています。この想像力には「おもしろい」と唸ってしまう僕です。

更に、初めたばかりの頃は無かったルールが次々に追加されました。その一つ目が**練習タイム**です。慣れていないお友達への配慮から生まれ、この時は引っかかってもセーフなのです。二つ目が**ガラス別ハンデ**で年長さんは一回・年中さんは二回・年少さんは三回とアウトになるのにハンデがあります。これらは子ども達から**こっぴどくうしろ**と生まれました。これらのアイデアには**すげー**の一言です。

【つづき】

この遊びの広がりには、まだまだあります。チャンピオンを目指して跳んでいる時は個人のみだったのですが、お友達のことを気に掛けるようになってくるのです。

「おい、○○。△△にはまけるなよ！」とか「△△ちゃん、頑張ってる優勝してね！」といった間にか応援が始まり、男女のチーム対決になっていくのです。

勿論個人としてチャンピオンになりたいのですが、自分がなれなくても「**ヤッター勝ったー**」と喜んでい

る子もいます。チャンピオンを目指して何度もチャレンジする姿や、なれずに悔しがる姿等、本当に色々なものが詰まっています。遊びが土台です。柿原 勝

ふぞく新聞

11月19日(金)

Vol. 14
(Vol.37)

ゴミ探検という遊び！！

ふぞく幼稚園の子ども達に人気のある遊びは色々あります。戦い「っこ・ジャンプでぴよん(ふぞく新聞十三号参照)・魔女ごっこ・クルクルタケコプター(回転遊具)・ブランコ・石鹸アワアワ等々。書ききれない程です。その中の一つに「ゴミ探検」と言う遊びがあります。数年前に始まった遊びで、園長先生が子ども達と名付けました。スーパ－の袋を持って園庭に落ちているゴミを拾うのです。

「え?遊び?」と思われる方がいるかも知れませんがその様子は間違いなく遊びです。ゴミを見つけると「**ゴミ発見!**」とまるで宝物でも見つけたかのように競い合って袋に入れていくのです。空き缶を見つけた時なんて「**それ僕の!**」「**私の!**」と奪い合いが始まる程です。

「ミミ拾い」という名ではなく、「ミミ探検」という名が子ども達の心をくすぐります。

探検という響きは、ワクワクドキドキするものです。

「たいちょう、こっちにおおきなミミをみつ

けました!」というある園児の声にさすが

年長組、お手柄だ!」と言葉をかえすと各

地から「**こっちにもみつめました!**」またま

たはっけん!」とどんどん遊びが深まってい

きます。

二年前、散歩の帰り道にゴミ探検をしながら幼稚園に戻った時のことです。ある園児

が、**きたないからやだ**と「ミミを拾おうとは

しませんでした。その隣にいた子は**やった!**

じゃあぼくがひろうと拾っていました。こ

の汚いから嫌だ」という言葉はとても意味

がありました。道路等にゴミを捨てない

のが一番大事」に繋がっていったからです。

【つづき】

「もうすぐ雪が降って園庭も真っ白になるね。雪の下にゴミが落ちていても分らないね」「そり滑りや雪合戦の時に空き缶があったら困るね」ということで、今年最後のゴミ探検をしました。

見つけたときの嬉しそうな表情は北風が吹いていても変わりません。スーパ－の袋にゴミをいれて大事そうに玄関まで持っていく姿がとても印象的でした。

自分たちの幼稚園を綺麗にして良い気持ちになる。またそれに貢献できたというのは子ども達にとっても嬉しいことなのです。それも遊びの中で体験できたら尚のこと。

ただ一つ、ウンチさえも拾おうとするのには要注意です! 柿原 勝

ふぞく新聞

12月6日(月)

Vol. 15
(Vol.38)

みんなに見せたい、 舞台裏のこの様子！！

十一月二十一日(日)は四〇回目のふぞく幼稚園のお遊戯会でした。

その日、僕はとても貴重な体験をさせてもらいました。それは年長さんの出し物(劇)ぎるかに合戦の時でした。今まで何度か、正面から全体的様子を見させてもらっていました。その後、練習を重ねる毎にとっても良くなっているという話を担任の先生から聞いていた僕は当日をとてもし楽しみにしていました。僕はバック絵を張った後、ステージから降りようとしてましたが、大勢のお客さんで降りることが出来なくなってしまうのです。『ありゃー』とショックに思いながらも仕方なくステージの横幕の後ろで、声だけを頼りに聞く(見る)ことにしました。しかしこの時の子ども達の声や表情や動きに……。

僕は何度か練習風景を見ていたので声を聞きながらも全体のイメージは想像つきましました。でもステージ横で今か今かと出番を待つ子ども達の様子は知りませんでした。勿論出番を終えてステージ横に戻ってきた後の様子も。

まずステージ横で子ども達を信頼し、じつと見守っている担任の千田先生の姿に感心しました。先生も一緒に参加しているので。子ども達と気持ちと一緒にになっているのがよくわかりました。

自分の出番が来るちょっと前までは僕の方を見ていた男の子がナレーターの声にすかさず反応して立ち上がり、横幕の前の方に自分から進んでいった時の集中した表情のなんとも凛凛しいことが、役を終えた後、僕を見て小さな声で『どうだった?』と祈るように聞く子ども達表情にも……。

【つづき】

全体から個々を見ていくことも必要で、大事なことです。と同時に個々から全体を見ていくことも必要で大切なことです。ステージ横でスタンバイしている園児は三名でした。でもその三名の姿から全体の様子が伝わってきました。

またこんなに感動したのは、その過程にあったように思います。初めからうまく出来たわけでは決まらなかったのです。いくつものハドルを越えて、担当の先生方と子ども達で作りあげていったのです。その過程の姿が子ども達の声を聞いていて頭に浮かびました。子ども達に、本当にありがとうの気持ちでいっぱい遊戯会でした。柿原 勝

ふぞく新聞

12月20日(月)

Vol. 16
(Vol.39)

続けていくことで・・・

二学期も後わずかで終わりです。この時期に戦いごっこ(新聞紙の剣を片手に、二つのチームに分かれてする遊び)昔のチャンバラごっこのような感じでしようか)をしていて思うことが幾つかあります。

まず一つ目は、「せんせい、○○くんがいないる!」という声はかなり減ったことです。一学期の頃は「○○くんがつよくたく!」「いーたーいー!」と何度も何度も遊びが中断したものです。

二つ目は、『切られたときに座る』というルールが徹底されていることです。最初の頃は「せんせい、○○ちゃんきつてもすわらない」とか「?」と切られても走り続けている子がいたものです。これらが変わってきた訳は!

ふぞく幼稚園では、戦いごっこは平成十三年度にブレイクした遊びでした。テレビの戦隊者の影響をかなり受けていた気がします。子ども達は○○レッド等になって戦っていました。その当時から、よく泣いて中断したものです。でもやめてしまうことはありませんでした。それだけ魅力的な遊びだったようです。勿論女の子も交ざって遊んでいました。やめようとはしない遊びですから、どうしたら良いのか子ども達に問い掛け、話しあつてルールを決めてきました。ある程度決まったら後は根気強く言い続けました。言い続けていくことで、遊びとして確立していったのです。危ないから「怪我するから」とやめてしまうのではなく、逆にそのことを通して、相手のことを知る、考えるきっかけとなりました。『痛い・自分もされたら』の繰り返しには意味があると思うのです。

独り言

この間、ニュースを見ていた時、度重なる悲惨な出来事にあるキャスターが言った言葉が妙にひっかかりました。「日本は確かに豊かかもしれないけれど、心は・・・」といった感じの言葉でした。最近、講演会に行っても似たような表現をよく耳にします。

便利なことでとても助かるのも事実です。その恩恵を僕自身もたくさん受けています。しかし、子ども達の世界は決して効率化ではうまくいきません。なぜなら過程に意味があるからです。大人からは無駄な事のように見えても、そこを通過することの意味があるのです。灰色に意味がある。(白でも黒でもないこの中間色に)

柿原 勝

ふぞく新聞

1月28日(金)

Vol. 17
(Vol.40)

何度も滑っていくうちに・・・

ふぞく幼稚園の子ども達に、新たな人気スポーツが誕生しました。というか学園の大工事の時に作って頂いたもので、雪によって姿を現したと言う方が正しいですね。それは緑ヶ岡学園のグラウンド奥にある、なだらかな坂です。

幼稚園の玄関から、そりを自分で引っ張っていき歩いて約三分(帰りは疲れているので約五分)で着きます。ただ横になって転がるのもおもしろいのですが、やはりそりで滑るのが一番人気です。特にわかさぎ釣りの荷物を積む大きなそり(Ⅱバスの運転手さんが持ってきてくれたもの)に乗って滑るのはかなり迫力があります。(子どもだけでは危険なほど速いのです)子ども達が何度も滑っている姿をみてあることに気が付きました。それは……。

年長さんはさすがですね。今までの経験から、体重のかけ方が自然と身についていて坂の一番下の方まで滑っていきます。

年中さんは様々で、怖いもん知らずで突っ込んでいく子もいれば、すぐに斜めに傾いて倒れてしまう子もいます。紐をそりで踏んだ状態で「先生うごかないよー」と坂の上のほうで呼んでいる子もいます。

年少さんは「先生と一緒に滑る」という子が多いですね。やってみたいんだけど、ちょっと怖い』という感じでしょうか。

そして何度も滑っていくうちに、自分で何とかしようと工夫しているのが見ていて感じられます。そりに乗る時も足をいきなり乗せると動き出して危ないことも分かってきたようです。勿論助言も大事ですが、この目で何とかしようとする』というのが子ども達には大切だと思っています。

独り言

冬の幼稚園の研修会で花輪充先生という表現遊びの先生に実技講演をして頂きました。その先生は色々な角度から表現遊びについて話して下さいました。その中でとても共感したことがあります。

鬼ごっこ遊び等をする際に、ただルールを説明して行うのではなく、物語を話して(Ⅱ素話)自然と鬼ごっこ遊びに結び付けていく方法もあるというものでした。想像することでワクワク感やドキドキ感が広がっていくのです。「あそびはあそびないとあそべない」というテーマは、まるでなぞなぞのようですが、遊びの奥深さを又少し知ることが出来た研修会でした。

柿原 勝

ふぞく新聞

2月14日(月)

Vol. 18
(Vol.41)

絵本から生まれる遊び

ふぞく幼稚園には色々な絵本があります。その中の一冊にさるのせんせいとへびのかんごふさん(ビリケン出版)という子ども達に大人気の絵本があります。

その絵本を読んだ翌日、絵本室でお医者さんごっこをしていると一人の男の子が絵本を持ってきて「これ作って!」と僕に頼むのです。(これとは、さるの先生が頭にかぶっているものです)

そして女の子が**先生私にもへびの看護婦さんの帽子作って!**とやってきました。(僕は作れないので器用な阿部先生に頼み看護婦の帽子を作ってもらいました)

更に薬も絵本を見ながら作り、健康診断に使う測りも用意しました。さあこれで準備はOKです。そして遊びが始まり(深まり)ます。

絵本の世界に入り込んでいる子ども達は紙に「のど」「せき」「ねづ」「かぜ」「おなか」「ぬりぐすり」と書いてあるだけの薬をととても大事に扱っていました。はい、お腹が痛いので**すね。じゃあこの薬を飲みましょう**とか**熱がありますね。じゃあ熱の薬を飲んで下さい**といった様子です。

更にこの遊びは続きます。さるの先生役をしている男の子が僕に**まさる先生、これかぶって**(お医者さん役をしてという意味で)と僕に渡しました。そこで絵本の一場面である**鼻づまりで困っている象の鼻をくすぐる**『真似をその男の子にすると**ハクシヨーン!**』とくしゃみをするのです。そして僕が遠くに飛ばされるのを見て笑っているのです。
何?」一体何のことが良く分からない方、是非一度この絵本を!

独り言

子ども達に絵本を読ませてもらっている様々なりアクシヨンに「おもしろいなあー」と思うことが多々あります。

『だめよ、デビッド!』(評論社)では鼻に指を突っ込んで真似している子がたくさんいます。

『つみきつんでもつとつんで』(徳間書店)では積み木が螺旋状になっていくのを見て「わぁー」と声をだす子もいます。

『ひょうたんハウス』(福音館書店)こどものとも年少版月刊絵本十一月号)を読んだ後は会話が自然と関西弁になります。

『うえへまいります』(PHP研究所)では先生と一緒に「チーン」と口ずさんでいます。本当に面白い。

柿原 勝

ふぞく新聞

3月11日(金)

Vol. 19
(Vol.42)

いよいよ、明日で・・・

明日はふぞく幼稚園の卒園式です。担任として関わったことはありませんでしたが、二十八名の子ども達と遊んだ事は僕にとってとても楽しく、貴重な思い出です。

バスから降りてくるとすぐに 先生、今日は何する?」とか 先生、お弁当食べたら戦いしよう」とか 肩車してー」とか ジャンプでぴょんしようよ!」とか お母さんごっこに入って」とか 縄跳び数えて」等々。

それに対して「ごめん、今うさぎさんの荷物整理を教えてから」「ごめん、トイレ連れて行くから後で・・・」「ごめん、〇〇ちゃん泣いているから、」等々と何度待たせたことだろう・・・。

遅いよー」と言いながらも 先生来たからやろう」と遊びに入れてくれたみんなに感謝。

卒園式の中で『お別れの言葉』というのがあります。その言葉を言っている姿を見ると色々な思い出が頭の中を駆け巡ります。

入園当時、玄関で泣いていた姿や集団遊びになかなか入れず様子を見ていた姿。今ではそんなこと 遠い過去』のようにさえ感じます。

中には赤ちゃんの時から知っているお友達もいます。ぞうだよなあ、もうこんなに大きくなったんだよなあ」と改めて時間の経過を感じます。

そんな中、あるお友達とランドセルの色について話していた時 先生、今度〇〇(弟)が幼稚園に入ったら私のランドセル見せに行くからその時見て!どんな色かうまく言えない」と言っつのです。ぞうだよなあ。これで終りじゃないんだ。区切りなんだ」と妙に嬉しく思いました。

独り言

感謝・感謝の一年でした。きりんさんには本当に色々な面で支えてもらったとうさぎ組の担任として感じています。

上靴をお部屋まで届けてくれるきりんさん。コップを水飲み場に忘れてくると 忘れてますよー」と教えてくれるきりんさん。トイレ先に貸して」と言えばいいよ」と快く譲ってくれたきりんさん。粉薬を飲めるうさぎさんに すごい!」と心からの賞賛をおくってくれるきりんさん。きつとこの姿は今のぼんださんに引き継がれていくことでしょう。昨年の年長さんから今のきりんさんが引き継いだように。子ども達が伝えていくって、とても良いですね。

柿原 勝